

東地区の事業概要

実施 年度	工 事 名	工事場所	契約(予定)日	完成(予定)日	契約金額または 予算額(円)
H27	比美町空き家跡地整備工事	比美町	H27.4.27	H27.5.22	231,120
H27	市道栄町入船線反射鏡設置工事	北大町	H27.4.27	H27.5.22	162,000
H27	北大町地内配水管布設替工事	北大町	H27.5.15	H27.8.14	20,390,400
H27	北大町地内カラ一舗装工事	北大町	H27.5.13	H27.7.10	1,728,000
H27	今町排水路清掃委託	中央町	H27.8.24	H27.8.31	1,029,240
H27	北大町防火水槽新設工事	北大町	H27.9.25	H27.12.18	10,238,400
H27	街路リフレッシュ側溝改良(その1)工 事(市道本川朝日線)	丸の内	H27.9.24	H27.12.4	2,786,400
				H27計	36,565,560

比美町空き家跡地整備工事



栄町入船線反射鏡設置工事



北大町地内配水管敷設替工事



今町排水路清掃委託



北大町防火水槽新設工事



街路リフレッシュ側溝改良工事



実施 年度	実施事業名	具体的な内容及び箇所	補助金等金額 または予算額	担当課	備考
H27	空き家活用まちづくり事業	空き家調査を実施(中心市街地)	12,842,000	地方創生課	
H27	安心生活創造事業	高齢者世帯等の見守り及び買い物支援等を行い、住み慣れた地域で安心して生活できる体制を整備する。	300,000	福祉介護課	H25～
H27	介護予防事業 高齢者元気ハツラツ教室	高齢者がいきいきと自立して生活できるように、食生活改善に関する知識の普及を図る。(6月9日)	3,000	健康課	
H27	介護予防事業 高齢者レクリエーション教室	高齢者を対象にレクリエーション教室を実施することで、閉じこもりや要介護状態になることを予防する。(6月9日)	2,100	健康課	
H27	高齢者料理教室	食生活改善推進員から一般住民へ生活習慣病予防の食事についての講習会を開催する(6月9日)	10,000	健康課	
H27	健康教室「やさしいフラ」	地域の健康づくりの意識を高め実践に結びつけることを目的に実施。(7月26日)	5,000	健康課	
H27	健診PR活動(旗立て)	受診勧奨のため、地区内に健診PRの旗をたてる(7～9月)	2,000	健康課	
H27	健康ウォーキング	地区一般住民を対象としたウォーキング教室を実施(10月予定)	5,000	健康課	

実施年度	実施事業名	具体的な内容及び箇所	補助金等金額 または予算額	担当課	備考
H27	健康づくり料理教室	食生活改善推進員から一般住民へ生活習慣病予防の食事についての講習会を開催する(12月1日)	10,000	健康課	
H27	幼児食らくらくメニュー講座	乳幼児とその保護者を対象に教室を開催し、食生活等の改善を図る。(1月19日)	7,000	健康課	
H27	子育て広場	地域の保育園を会場に年1回、未就園児とその家族を対象に健康教室を行い、家族ぐるみで健康づくりの実践ができるように働きかける。(1月27日)	2,000	健康課	
		H27計	13,188,100		

質疑応答

地方創生について

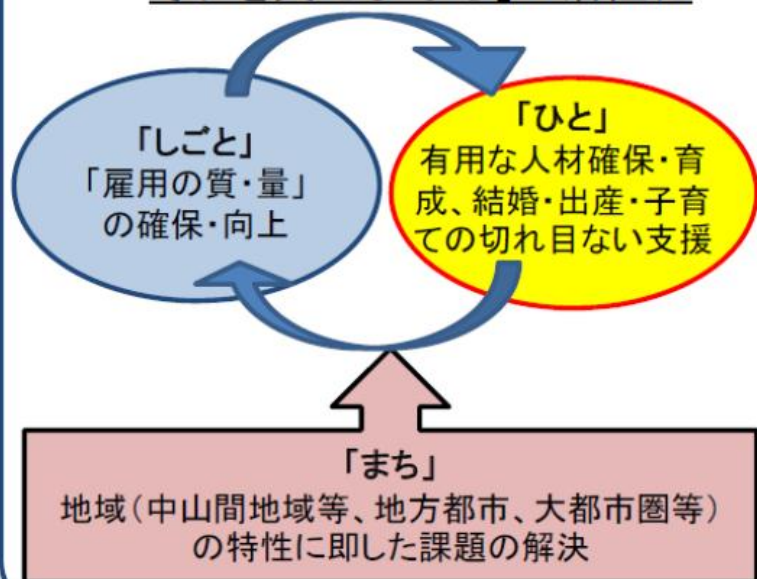
まち・ひと・しごと創生に関する基本的考え方

【基本的考え方】

【基本的視点】

- ①東京一極集中の歯止め
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現
- ③地域の特性に即して課題解決

「しごと」と「ひと」の好循環、
それを支える「まち」の活性化



【過去の政策検証】

- 「縦割り」構造
 - ・政策手法が似通い、施策の重複や小粒な事業の乱立
- 「全国一律の手法」
 - ・使用目的が縛られ、地域特性や主体性が考量されない
- 「バラマキ」
 - ・客観的な成果検証と運用の見直しメカニズムが不足
- 「表面的な」取組
 - ・対症療法的施策は構造的問題への対処に改善の余地
- 「短期的」な成果
 - ・短期間で変更・廃止を繰り返す施策が多い

【政策5原則】

- 自立性** 地方自治体・民間事業者・個人等の自立につながる
- 将来性** 地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援
- 地域性** 各地域は地方版総合戦略を策定、国は利用者の側から人的側面を含めた支援を実施
- 直接性** ひと・しごとの移転・創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施
- 結果重視** 短期・中長期の数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証、改善

「地方人口ビジョン」・「地方版総合戦略」の意義 —人口減少時代の新たな行政革新—

1. 地域の現状・将来に関するデータ分析—「分析企画」

- ・客観的データに基づく戦略策定
 - ・行政と地域住民の意識共有
- 「地方人口ビジョン」
「地域経済分析システム(RESAS)」

2. 「積極戦略」と「調整戦略」の同時対応—「複眼思考」

- ・「積極戦略」: 人口減少の歯止めのための戦略(人口流出防止、出生率向上)
- ・「調整戦略」: 人口減少に即した戦略(効果的・効率的な行政・まちづくり)

3. 地域の「産官学金労言」の参画—「調整結集」

- ・政策の「縦割り」を排除して、各分野の政策・事業・人材を結集
- ・幅広い各層(女性や若者、外部人材も)の意見汲み上げ、
産業・学界・金融・労働・マスコミの参画
- ・「縦割り」の排除⇒各分野の政策・事業の「組み合わせ」

4. 「数値目標」の設定と5か年の「PDCAサイクル」の徹底—「成果重視」

- ・5年先の「数値目標(成果目標)」設定。その後、毎年効果検証、的確な政策見直し
- ・「予算重視」から「決算・成果重視」へ

5. 市町村間の連携—「広域連携」

- ・広域圏などで複数市町村が総合戦略を共同作成
- ・個別事業(広域観光、都市農村交流など)での市町村連携

「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定プロセス

<地方人口ビジョン>

- 人口の現状分析
- 人口の将来展望

<地方版総合戦略>

- 基本目標(成果目標)
- KPI(重要業績評価指標)

- 各分野の施策

氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略の4つの基本目標

基本目標Ⅰ

(安定した雇用を創出する)

氷見市の特色を活かし、時代の流れに対応しながら魅力的な雇用を増やす

基本目標Ⅱ

(新しいひとの流れをつくる)

「回遊する人材を定置網のように受け止めるまち氷見」を実現する

基本目標Ⅲ

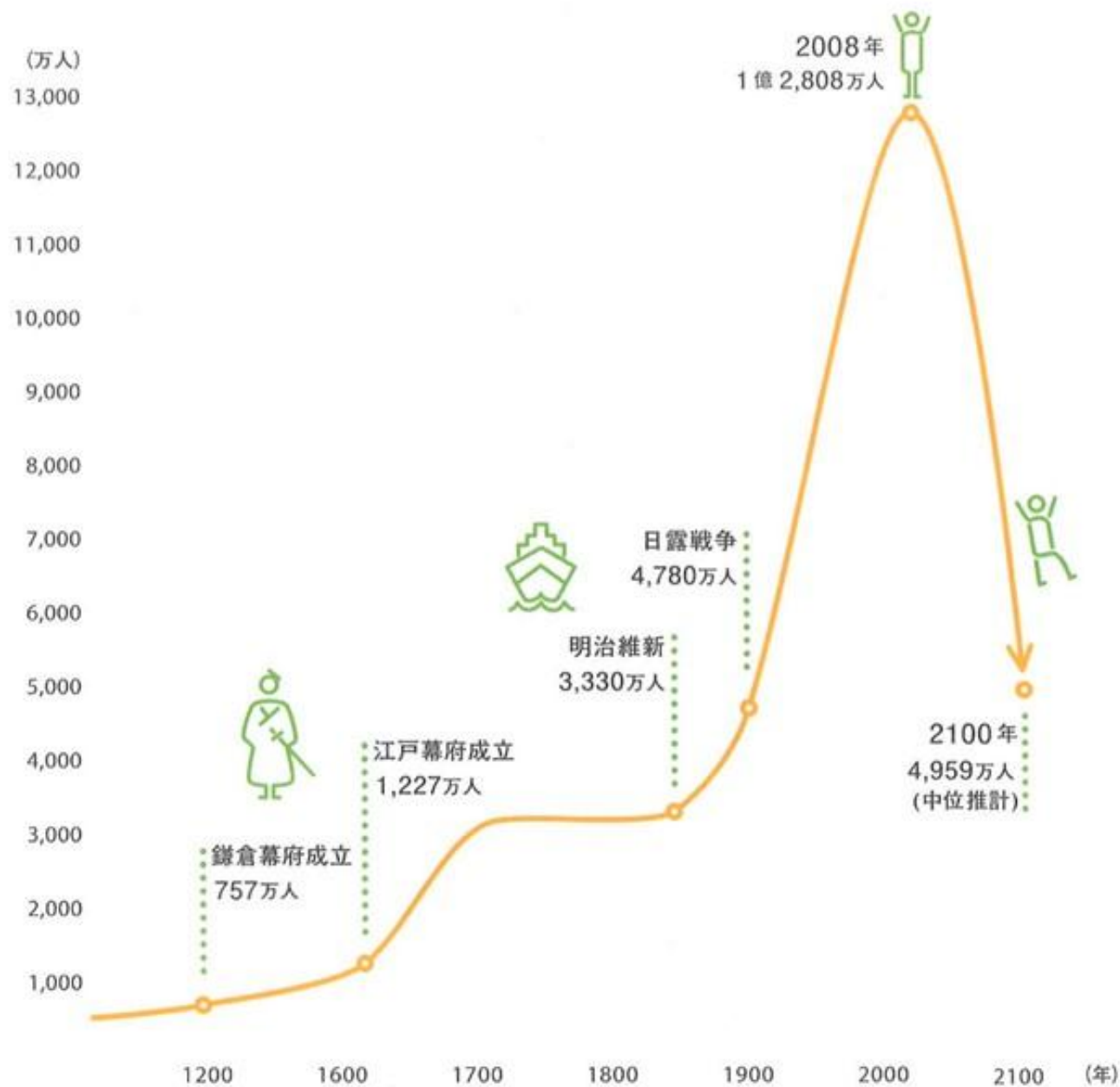
(結婚・出産・子育ての希望をかなえる)

氷見での結婚・出産・子育てを楽しみ、子どもの笑顔で満ちあふれた家庭を増やす

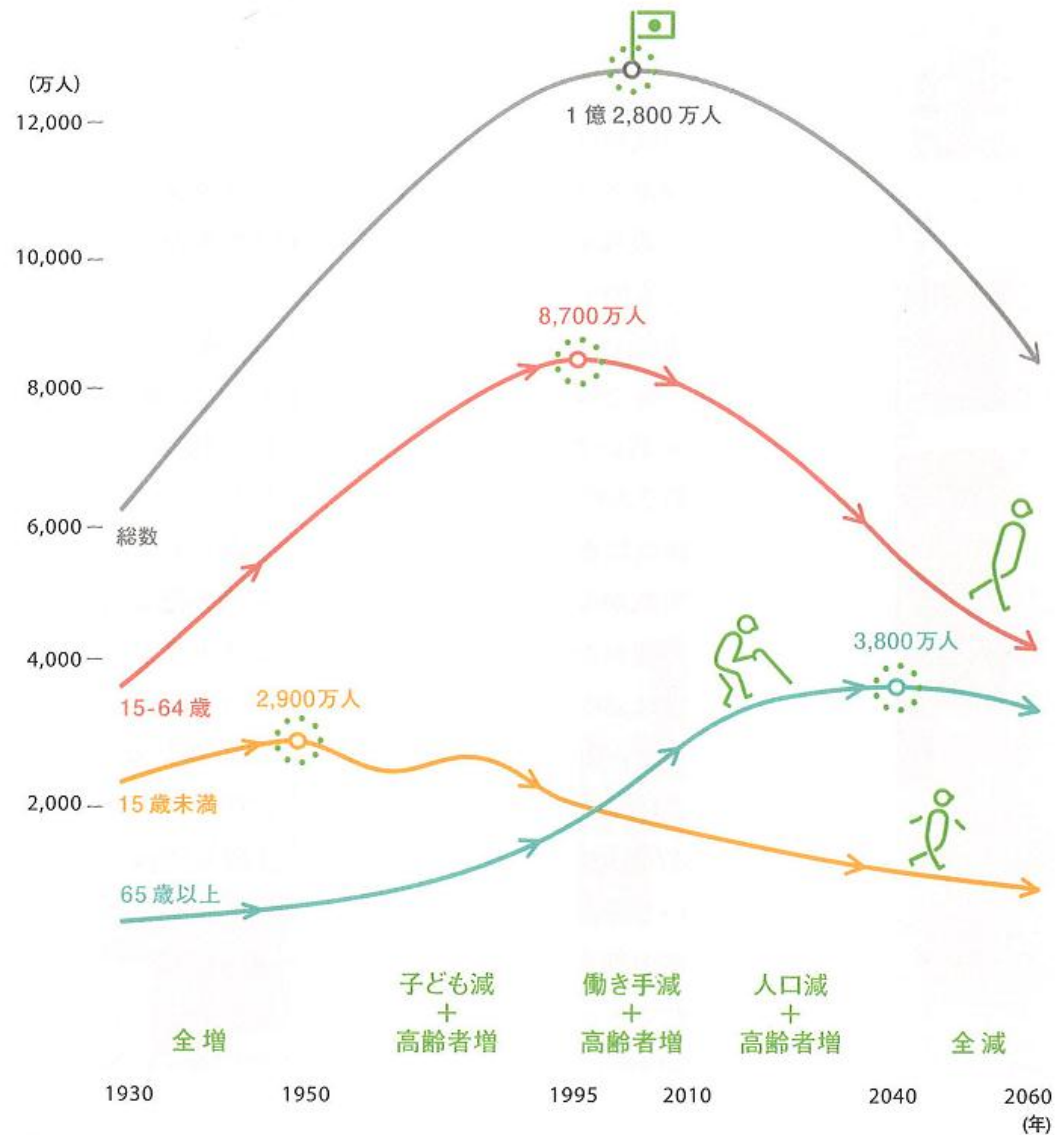
基本目標Ⅳ

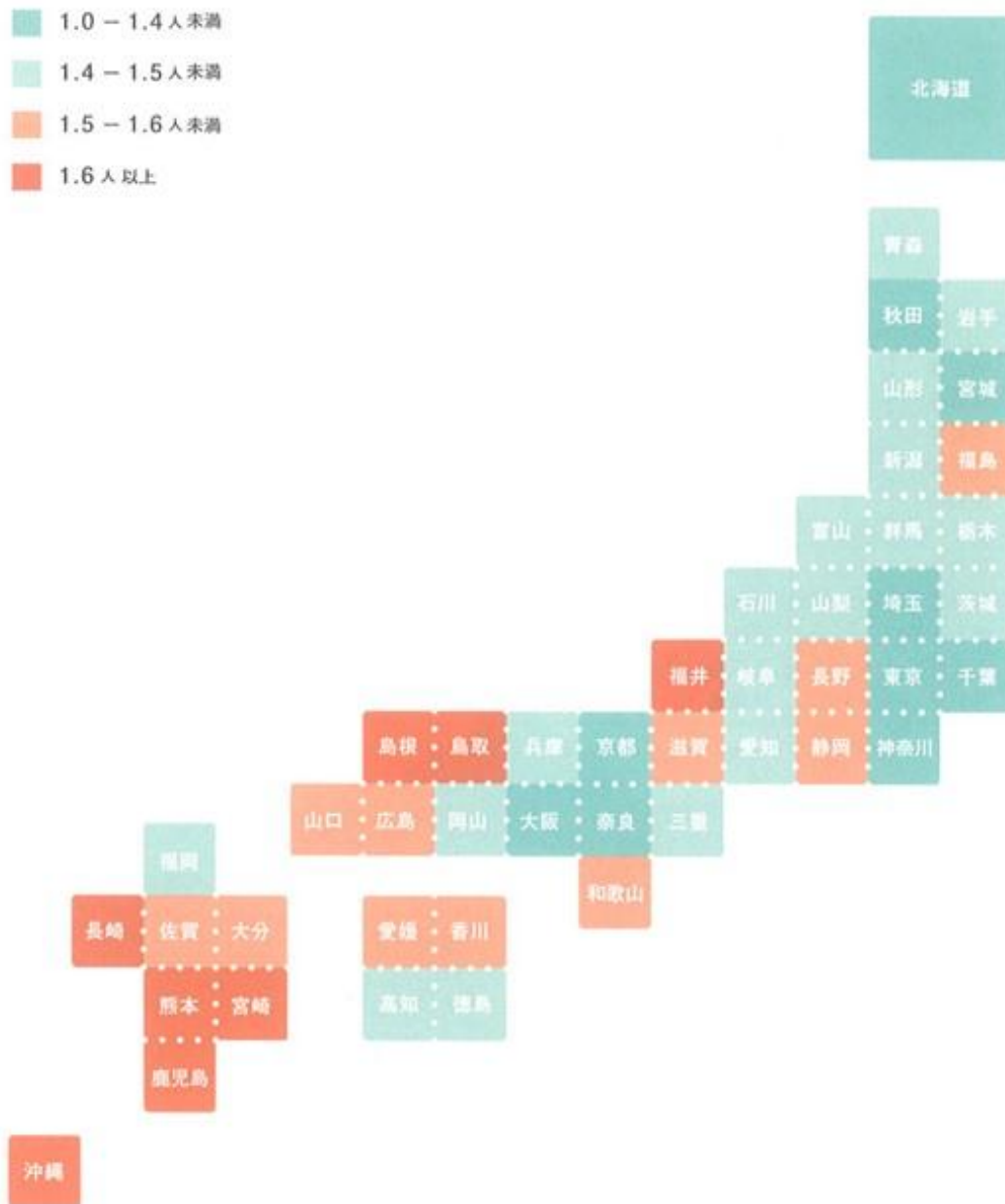
(時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する)

住み続けられる持続可能なまちを実現し、地域資源を効果的に活用した魅力的な地域社会を実現する



3 区分年代別人口の推移 (2012年1月推計)



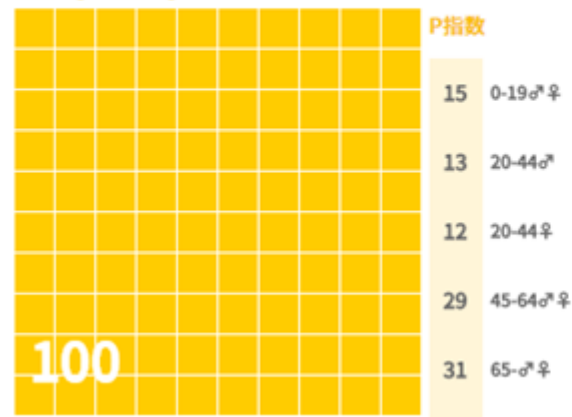


出典：人口減少×デザイン
著 筧 裕介

人口減少 × デザイン 富山県 氷見市

地域と日本の大問題を、データとデザイン思考で考える。

2010

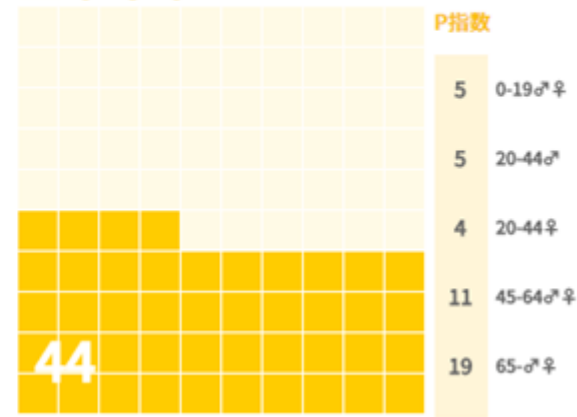


+

なんの対策も
行わない

=

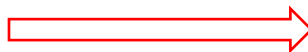
2060



氷見市全体の20～39歳までの女性人口

2010年

4,824人



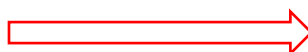
2060年

1,476人

東地区の20～39歳までの女性人口

2010年

487人



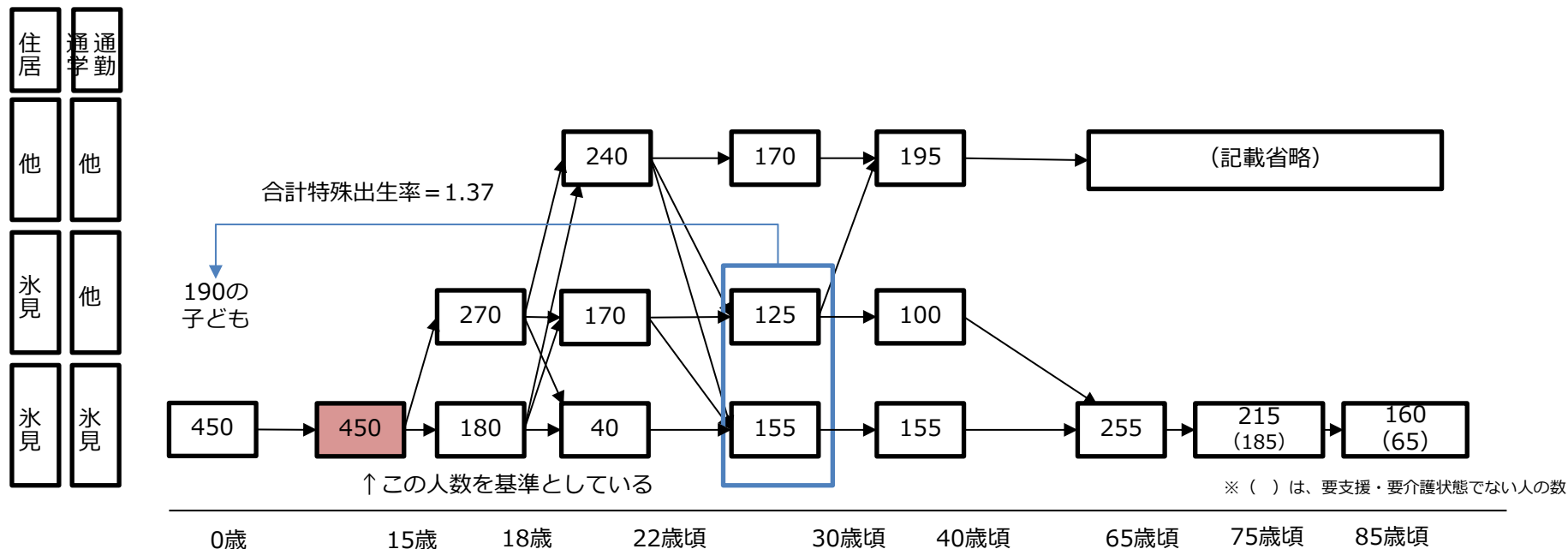
2060年

149人

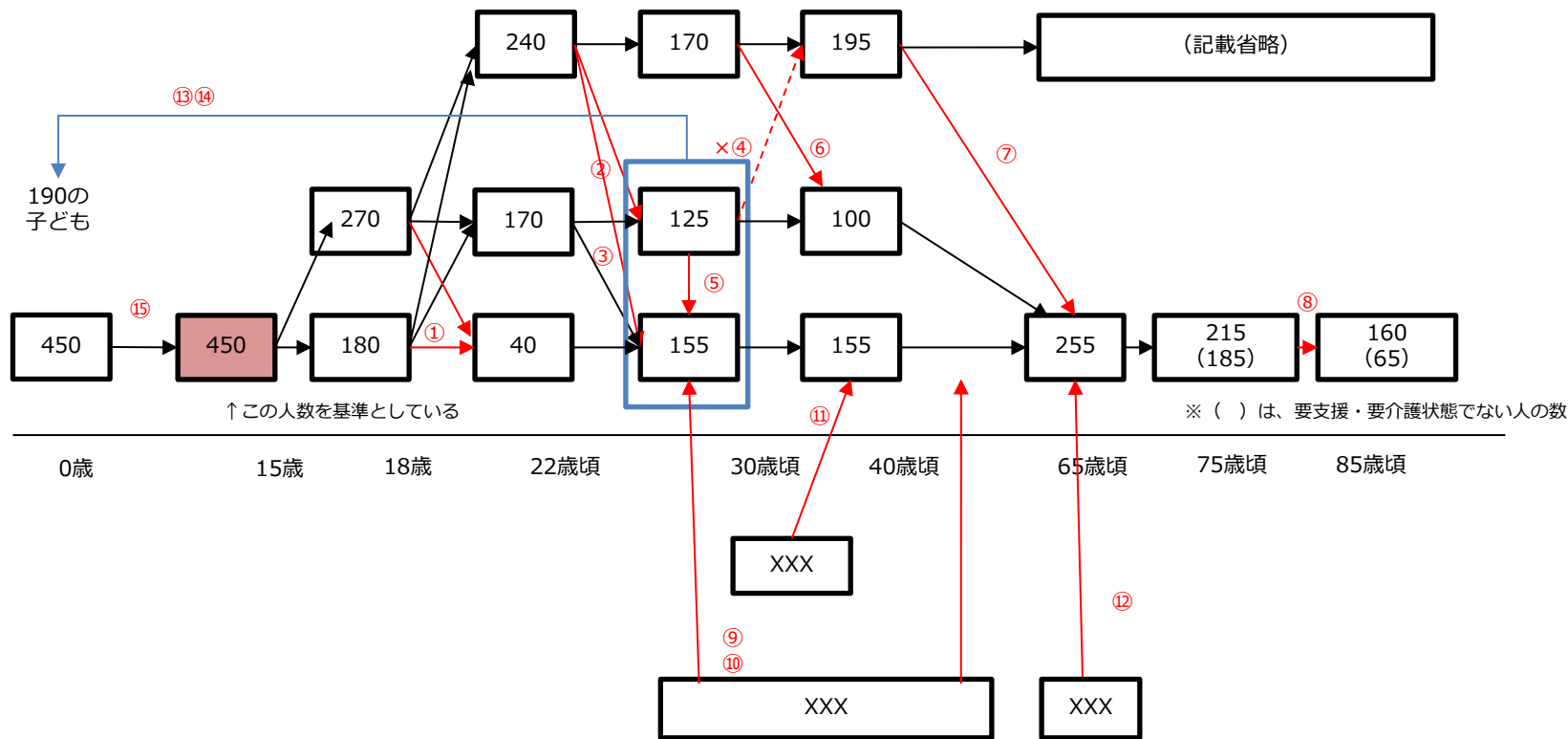
※東地区の2060年の20～39歳までの女性人口については、東地区の2010年の人口に、氷見市全体の2010年→2060年の比率を乗じて算出

【現状】氷見市の中学生が卒業後に、どこに居住・通勤通学をするか？（※単位：人）

※450人（平成23年度～平成26年度に氷見市内の中学校を卒業する人数を参考とした数）を基準とした



※上記のモデルは、氷見市教育委員会資料（平成23年度～平成26年度の中学校卒業生の進路）、resas『富山県氷見市 年齢階級別純移動数の時系列分析』、S55～H22年国勢調査、とやま統計ワールド経由で取得した「平成11年富山県の人口」および「平成26年富山県の人口」、H25～H27ハローワーク氷見の資料、resas経由で取得した『人口動態調査』、公益財団法人 生命保健文化センター資料（元データは厚生労働省「介護給付費実態調査月報（平成26年7月）」総務省「人口推計月報（平成26年7月）」）、国立社会保障・人口問題研究所の氷見市の生残率、住民基本台帳のH26出生数をベースとしてヒアリング等を踏まえて推計を実施。



- ①【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす
- ②【ひとの流れ】20代のUターンを増やす
- ③【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす
- ④【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす
- ⑤【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす
- ⑥【子育て】子育ての魅力で氷見市に引越す方を増やす
- ⑦【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす

- ⑧【安心な暮らし】長生きをする＆健康寿命を伸ばす
- ⑨【ひとの流れ】20～40代のITターンを増やす
- ⑩【しごと】20～40代のITターン者が就きたい仕事を増やす
- ⑪【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす
- ⑫【ひとの流れ】定年後のITターンを増やす
- ⑬【結婚】婚姻数を増やす
- ⑭【出産】出生数を増やす
- ⑮【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

人口流出を防ぐ／流入を増やすために現状から積み増したい具体的人数

年あたり純移動数の増加人数
※現在の純減数を基準として、年間で更に積み増す目標人数

氷見市全体

東地区の場合

(氷見市全体の1／8.5の人数を記載)

【観点との関連】

⑮【ひとの流れ】未就学児の親子で氷見市に引っ越す方を増やす

①【しごと】氷見市に高卒新卒者が就きたい仕事を増やす

※高卒の仕事に就いた瞬間に純増しないと想定されるので、ゼロとした
(⑤と⑪に寄与することを想定)

②【ひとの流れ】20代のUターンを増やす

③【しごと】氷見市に20代の方が就きたい仕事を増やす

④【ひとの流れ】氷見市から他地域に通勤する方の転居を減らす

⑤【しごと】④のために、氷見市に子育てと両立する仕事を増やす

⑥【子育て】子育ての魅力で氷見市に引っ越す方を増やす

⑨【ひとの流れ】20～40代のIターンを増やす

⑩【しごと】20～40代のIターン者が就きたい仕事を増やす

⑪【ひとの流れ】他地域から氷見市内に通勤する方の転居を増やす

⑦【ひとの流れ】定年後のUターンを増やす

⑫【ひとの流れ】定年後のIターンを増やす

全体	150人の 純増
0～4歳→5～9歳	15
5～9歳→10～14歳	0
10～14歳→15～19歳	0
15～19歳→20～24歳	0
20～24歳→25～29歳	90
25～29歳→30～34歳	15
30～34歳→35～39歳	15
35～39歳→40～44歳	0
40～44歳→45～49歳	0
45～49歳→50～54歳	0
50～54歳→55～59歳	0
55～59歳→60～64歳	0
60～64歳→65～69歳	15
65～69歳→70～74歳	0
70～74歳→75～79歳	0
75～79歳→80～84歳	0
80～84歳→85～89歳	0
85歳以上→90歳以上	0
合計	150

約1.8人

約10.5人

約1.8人

約1.8人

約1.8人

約17.7人

※人数配分については、推進協議会を経た後で変える可能性があります

※社会純増の人数は年間の人数。推計条件に従った厳密な計算では、5年間の社会純増数を5で除いたものです。例えば、150人の純増のうち、20～24→25～29歳の人数は90人ですが、推計上は5年で450人という単位で計算したものです

地方創生に向けて、皆さんの知恵やご意見を！ 井戸端会議をしてみよう！

- ① 4～5人でグループをつくります。
- ② 各グループに市職員が入り、皆さまのご意見を記録します。
- ③ いただいたご意見は全体で共有し、今後、地方創生総合戦略を策定する際の参考意見とさせていただきます。

Q 1. 東地区へ、転入者を毎年6人多く増やすために、
どんなことをすればよいでしょうか。

Q 2. 東地区から転出者した方を、毎年12人多く戻すために、
どんなことをすればよいでしょうか。

意見交換

地方創生の意見等を募集しております

- **氷見市人口ビジョン(素案)及び地方創生戦略（素案）の意見等募集**

- 氷見市の人口の考え方や地方創生戦略の素案について、皆様のご意見を賜りたいと思っております

- 詳細は

<http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000005700/hpg000005649.htm> に記載しております

- 氷見市のトップページ（<http://www.city.himi.toyama.jp/>）をお開きの上、ページ上部のTOPICS内の「10月9日 お知らせ 氷見市人口ビジョン(素案)及び地方創生戦略（素案）の意見等募集について」をクリックいただくと、上記ページに移動いたします

- **上記についての説明会の開催**

- 10月14日（水）午後7時から いきいき元気館 3階ホールで開催いたします
- 事前予約は不要です

